

市民派連合

質問者

篠原 敏宏

永田 公由・古畑 秀夫

丸山 寿子



持ち時間115分

ウイズコロナで地方にはチャンス到来

◆ウイズコロナで東京からの移住定住が始まる

問 「ウイズコロナ」は東京一極集中からの脱却、移住定住のキーワードだ。現在改定作業中の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では都市からの人口誘導対策として集合住宅のリフォームやリモートオフィスへの転換が有力な戦略になると思う。そのためのMICE(ワイファイ)環境整備補助金の創設、また野村枯梗ヶ原区画整理事業に続く、とくに本社機能誘致を含めた新たな企業誘致戦略は考えないか。

答 たしかにウイズコロナはチャンスととらえ、MICE補助制度を含めサテライト

オフィス対策を講じて参りたい。企業誘致については新年度予算に調査費を計上したい。

(産業政策課)

◆予算編成方針と重点施策について

問 令和3年度は市長任期5期目の折り返し、マニフェストの総点検の観点で、自己評価を含め令和3年度予算編成の方針は。

答 5期目の折り返しに当たり、マニフェストの進捗は概ね順調と自負している。目標の「子育てしたくなるまち日本一」を具現化する子育て支援、教育再生、農業再生、産業育成、住民福祉の向上、未来の都市づくり、戦略的シティプロモーションを新年度も目指す。具体的には五次総第3期中期戦略とマニフェストの重点化を軸に、ウイズ・アフターコロナ施策関連事業、DX推進による業務改革、財源確保の四項目を掲げ、重要性、緊急性の高い事業

を厳選していく。

(市長)

◆榎川診療所医師確保、直営でないとなし

問 市は敬仁会から現在の指定管理期間をもって指定管理を終了するとの申し出があった昨年12月以来これまで、指定管理者の公募はしたが医師を探さずアクシオンは見られない。医師探しに貴重な1年が無為に過ぎた。市は一貫して直営に戻す気はないとの姿勢だが、医療関係有識者によると医師を本気で探すのなら一刻も早く直営に戻すべきだとの見解もある。直営に戻すことも選択肢のひとつではないか。

答 指定管理で行く方針に



存続希望の榎川診療所

変わりはないが、紹介していただける医療関係者には会って話を聞きたい。

(健康づくり課)

◆バイオマス発電燃料材の調達は大丈夫か

(永田公由議員関連質問)

問 10月に稼働した木質バイオマス発電所では、すでに燃料材が足りない状況が見て取れ、大いに懸念している。松くい虫枯損木の活用やB材に最大トン当たり3000円を補助するなど対策がようやく出てきたが、県の取り組みが鈍い。素材生産できる林業事業者の育成、燃料材確保のために森林づくり県民税を促すようにすることが急務と思われないか。

答 同感だ。県には常に燃料材の流通主体は県で、市町村はサポート役だと申し上げてきた。

(市長)

問 地元市として森林公社をもつと機能強化し素材生産ができる事業体にするこ



燃料材の不足が心配。木質バイオマス発電所

と地元林業事業者の育成に力を入れるべきと思うがどうか。

答 公社は森林経営計画を立てられる事業体になり若い職員を雇用できるようにしたので、山に入って実際に材を出すこと、中小民間事業者が使える森林経営計画を作成することが公社のミッションだと考えている。

(市長)

要望 県議会でこの議論が真摯になされるよう県議にも働きかけてほしい。

その他

- 手話言語条例と市の責務
- 公共施設管理体制等について